

第 41 回 ECE プログラム委員会幹事会 議事録

1. 日時：平成 29 年 8 月 1 日（火曜日）15:00-17:00
2. 場所：機械振興会館（B3-8 会議室）
3. 出席者：（アンダーラインで示す、なお以下敬称略）須藤亮（新 CPD 協議会会長 & ECE 委員会委員長） 広崎膨太郎（前委員長、オブザーバ）、石原直（協議会副会長 & ECE プログラム委員会委員）、武田晴夫、秋永広幸、渡邊 誠、加藤穂慈、京谷美代子、田辺朗、松村正明、持田侑宏、奥津良之（記録）
4. 配付資料
資料 41-1 第 40 回 ECE プログラム幹事会議事録（案）（H29/5/30）
資料 41-2 平成 29 年度 CPD 協議会全体会議議事録（H29/6/7）
資料 41-3 H29 第一回 CPD 協議会公開シンポジウム FLYER および実施報告書
資料 41-4 エレクトロニクス系ハードウェア高度技術者養成 ECE プログラム企画案（再改版 5/25 バージョン）・・・いわゆる「青写真」
資料 41-5 NIMS 平成 29 年度 ECE プログラム状況報告（カラーバージョン）
5. 新委員長挨拶 ECE プログラム活性化に向け鋭意議論を進める旨挨拶戴き審議に入った。

6. 前回議事録（案）確認

第 2 頁 15 行目 誤記訂正（× 検証→○顕彰）をもって承認された。なお、
第 2 頁 32 行目（エレキ）塾長打診の件について、広崎前委員長から、既に服部先生から了承の返答を得た、との補足説明があった。また 1st STEP として、奥津幹事長 VS 服部先生で打合せを一度 8 月～9 月でもち、ECE 経緯、事例、エレキ構想など共有することとした。

●武田委員から本務および SDGs 牽引活動その他多忙との理由で、委員辞退の申し入れがあった旨幹事長より説明があり、新委員長、委員各位は 武田委員にこれまでの感謝を祈念しつつ申し入れを了解した。なお、武田委員からは代替りの委員を派遣いただけるとのこと、これを議事メモに記載し、委員派遣を調整頂く事とした。

（委員変更については次回 CPD 協議会に報告する。）

7. 各報告

（1）SICE 奥津委員より、プロセス新塾 2017 の実施状況につき口頭報告があった。

- 39 名が 6 月 2 日の開講式をもって塾生として研鑽生活をスタートした。
- 2017 開講式では昨年度スーパ受講生による 10 分間プレゼンテーションを実施した。
- 第 2 回スクーリングを鳥取県米子市 王子製紙米子工場殿を会場として実施した。
座学では化学プロセス設計演習も実施され、大いに学習体験できた。
- 交流会も王子製紙技術員 5 名同席し盛況であった。塾長囲み第 3 次会まで実施された。

●昨年から開校式でECEプログラム修了要件につき主査から10分間程度説明をしている。その効果と思われるが、提出されるレポートの質が飛躍的に高まった、と講師陣から複数報告がある。ECEプログラム認定効果は確実にあると判断される。

(2) NIMS ECE 状況報告 資料41-5を用いて、物質・材料基礎ECEプログラムのH29年度実施状況について、全般的に実施状況は順調である旨渡邊委員から報告があった。直近では7月21日「嗅覚IoTセンサの標準化に向けたナノメカニカルセンサの総合研究開発と産学官連携」(会場：丸の内)を実施した。講義15名、ゼミ10名。ただし、60歳代の参加者が40%と大分を占めており、若手技術者をさらに多数集めるべく、広報手法を工夫したい。ご参考 NIMS イブニングセミナー <evening-seminar@nims.go.jp> 引き続きECEプログラム発展的に推進戴く様、新委員長から激励の言葉があった。

(3) 産総研IoTプログラム(開発中)は試行および準備は順調に推移の旨 秋永委員から口頭報告があった。具体的には、

●10月10日11日講義(場所 早稲田大学西新宿キャンパス)10コマ~11コマを準備している。AIデバイスから計測までを踏み込む内容とする。将来は13コマをmax.としたい。

●10月24日25日実習(場所 産総研つくば中央)セキュアポイント・アナログデバイスを製作する予定。毎回5名程度予定。 講座を受けた人は翌年も実習権利を持ち越せる。

●2018年4月に 2018年度 新規ECEプログラム申請を行う方向で 体制準備している。

●一つ気になるのは ECE修了の合格判定の方法である。何を以って合格とするか。

●幹事会メンバーの講座・実習陪席はOKである。奮って陪席されたい。

引き続きECEプログラム発展的に推進戴く様、新委員長から激励の言葉があった。

(5) エレキ・イノベーション人材ECEプログラムFeasibility Studyにつき 資料41-4を参照して奥津から進捗状況の報告および全員でデスクッションを実施。

●背景説明・・・エレキハード技術継承はどの企業も現場任せで、壊滅的。組織的に教育が行われていない。技術者は仕様書を作るだけの毎日で、技術水準が落ちている。事態は日に日に悪化し、一刻の猶予もない状態である。すぐさまSICE塾手法を横展開・適用して開発を加速したい。と幹事会で認識している。

●石原プログラム委員から提案戴いただいた新川崎NANOBIC視察訪問の件は 8月末~9月初旬の 午後半日 で先方(窓口 **NANOBIC** 真期 彰さま 〒212-0032 川崎市幸区新川崎7-7かわさき新産業創造センター NANOBIC 事務室 携帯：080-6560-3060 <http://open-labo.skr.jp/>)

と調整中である。 当日 先方は説明担当の三宅先生(東大)か笠間先生(東大)が対応される様子です。

以下デスクッション。

●講座構成(資料41-4)について秋永委員から「完璧で素晴らしい」と驚嘆の声を戴く。

●基本的には電気通信情報学会に管理主体を任せたい。ただし学会の教育部門の規模が小さくなりつつあり動き難いかもしれない。そこで歴代の学会会長、過去の教育委員長、工学

会CPD協議会参加委員などを適宜活用しながら、Administrative responsibilityを是非にお願いしたい。

●技術士会も協力できるかもしれないとの松村委員からの力強いご示唆を得ています。

●SICE塾を参考にすが、より少し若い受講生を狙う。(実務5~10年技術者対象)

●塾長は 服部武 先生 (上智大客員教授) から内諾済み。そこで奥津幹事長から連絡を取り8月内に上智大学を一度訪問して 挨拶&概要説明(できれば計画案推進)をおこなうことにした。(広崎オブザーバからも事前メールを入れていただく。)

<http://rscdb.cc.sophia.ac.jp/Profiles/72/0007161/profile.html>

●デバイス開発は小型化からどういう機能かに視点が移った。FAGAがPLATFORMERとして急速に台頭してきている。FAGA:Facebook, Amazon, Google, Apple 日本はどうするのか。

●SICE塾の実績から 奥津幹事が エレキECE検討メンバを招集し 具体的組織化を進める。(9月以降 服部塾長と相談する)京谷委員・石原アドバイザーはTASKメンバーとして適宜協力いただく。またNEC殿からおよび、日立殿から新しいメンバーが推薦される予定である。

●組織化マネジメントを具体的に進めてください。(新・前委員長指示)

次回(第42回会合)は2017年

10月18日(水)15:00~17:00 を申し合わせて閉会とした。しかしながら、その後再調査すると奥津予定、さらに石原プログラム委員予定、また会議室が先約のため予定が確保できず、前日17日同時刻を会議室仮予約できました。どうぞお願いです、次回会合を、

10月17日(火曜)15:00~17:00 森戸記念館 第2会議室

をお願いしたく、いかがでしょうか? 幹事長平身低頭致します。

以上

IMPORTANT MESSAGE !

NANOBIIC 真期さまから本日8/3返事が来ましたが、以下のようです。

「4大学幹事教授の希望日は以下です。

8月24日(木)

8月25日(金)

9月11日(月)

9月14日(木)

上記日程で調整が可能でしょうか?」

各位 訪問希望日を幹事奥津までメール返信ください。できるだけ多くの委員が参加できる日を 先方に伝えようと思います。 8月7日(月)深夜までに返信ください。奥津
